

『人文地理』執筆要領 (2020年4月11日改訂)

注) この執筆要領に従って作成された投稿論文の受付は、2020年10月14日(水)より開始します。以後に学会事務局に到着する投稿論文は、新規・再投稿の別を問わず、全てこの執筆要領に従って作成する必要があります。2020年11月7日(土)の編集会議で審議予定の再投稿論文の一部についても、投稿締切日が10月13日(火)となりますが、この執筆要領に従った修正をお願いする可能性があります。なお、引用文献へのアルファベット表記の併記に伴う暫定措置として、投稿規程に定める掲載時の上限ページ数を1ページ増しとし、論説・展望は25ページ、研究ノート・フォーカスは23ページとします。この執筆要領に従った論文は、『人文地理』第73巻第1号(2021年3月末刊行予定)から順次掲載します。

1 原稿の作成

原稿は、A4用紙を用いて1ページ当たり40字×40行とし、11ポイントで印字する(書評は12を参照)。フォントは「MS明朝」とし、章節タイトルは「MSゴシック」とする。英数字は半角にして「Century」を用いる。本文中の()「 」や『 』は全角とし、文献表の()は半角とする。原稿は次の①～③に分け、ページ下部の中央に各々の通しページ番号を付ける。①と②は、ページごとに行番号も付ける。

- ①表題、著者名、所属、目次、摘要、キーワード、電子メールアドレス、英語表題、英語著者名、英語所属、Abstract、Key words
- ②本文、付記、注、文献
- ③図表一覧(図表番号、日本語表題、英語表題、注記)、図、表、転載(掲載)許諾書のコピー

2 表題および著者名と所属

表題は、論文の内容を過不足なく表現するように付ける。必要に応じて、副題を「— —」で挟んで付ける。著者名には所属を添える。大学教職員などは、原則として学部名や研究科名までを「〇〇大学〇〇学部」「〇〇大学〇〇研究科」のように記し、大学院生は「〇〇大学〇〇研究科・院生」などとする。日本学術振興会特別研究員は、「〇〇大学〇〇研究所、日本学術振興会特別研究員(PD)」とする。大学院生が日本学術振興会特別研究員の場合は、「〇〇大学〇〇研究科・院生、日本学術振興会特別研究員(DC)」などとする。

3 目次および本文中の章節見出し番号

目次は本文中の章・節・項の見出し番号とタイトルを抜き出して作成し、本文中の記載と齟齬がないようにする。章と節の見出し番号は、それぞれI, II, III, 1, 2, 3のように付ける。項の見出し番号は(1), (2), (3)とする。それ以下の見出しはa, b, cとするが、目次には記載されないのなるべく避ける。見出し番号(アルファベットも含む)の直後には全角のスペースを空ける。

4 摘要

摘要は400～600字で改行せずに作成し、論文全体の内容を簡潔に表したものとす。図表や文献などには言及しないことを原則とする。

5 キーワード

キーワードは、摘要の下に1行分のスペースを空けて、6語以内で付ける。当該論文のテーマ、フィールド、目的、方法、結果などを過不足なく表現し、用語として的一般性を備えたものとする。表題に含まれる語を選択してもよい。「和歌山県和歌山市」や「若年人口の都心回帰現象」などの長すぎる語はなるべく避ける。

6 英語表題、英語著者名、英語所属、Abstract, Key words

英語表題はキャピタライゼーションにより、表題の先頭文字と個々の単語の頭文字を大文字とし、冠詞、等位接続詞、4文字以下の前置詞は小文字とする。英語著者名は姓名の順とし、姓はすべて大文字、名は頭文字のみ大文字とする。英語所属は、所属機関で定められた正式な表記を用いる。大学教職員などは、原則として学部名や研究科名までを「Faculty of ○○, ○○ University」「Graduate School of ○○, University of ○○」のように記す。大学院生は「Graduate Student, School of ○○, ○○ University」とする。日本学術振興会特別研究員は「JSPS Research Fellow, Research Institute for ○○, University of ○○」のように記す。大学院生が日本学術振興会特別研究員の場合は、「Graduate Student, JSPS Research Fellow, School of ○○, ○○ University」などとする。Abstractは摘要の翻訳とし、200～250語で作成する。必ずネイティブチェックを経しておくこと。Key wordsはキーワードの翻訳とし、冠詞は省く。また、固有名詞を除いて頭文字も小文字とする。

7 本文

文体は、固有名詞や引用文などを除き、常用漢字、新字体、新仮名づかいを用いる。平易かつ客観的な表現を心がけ、例えば「わが国」は避けて「日本」とする。句読点は、全角の「，」「。」を用いる。年号表記は西暦〔例：2020年〕を原則とするが、西暦（和暦）年〔例：2020（令和2）年〕、あるいは和暦（西暦）年〔例：令和2（2020）年〕としてもよい。

外国語地名はカタカナ表記とし、定着していない地名は初出時にアルファベット表記を併記する〔例：コキットラム（Coquitlam）〕。外国語人名も、引用文献の著者名を除き、地名に準じて表記することを原則とする。

文献の引用は、著者名と刊行年を用いて、「○○（2020）によると～」「～という反論がある（○○，2020：10–12）」「～との主張がある（○○，2020a：20–24，2020b：16；△△，2020）」のように示す。共著文献は、2名の場合は「○○・△△（2020）によると～」（日本語文献）、「～という反論がある（○○ and △△，2020）」（アルファベット文献）などとし、3名以上の場合は「○○ほか（2020）によると～」（日本語文献）、「～との主張がある（△△ et al.，2020）」（アルファベット文献）などとする。編著書を引用する場合でも、「○○編（2020）によると～」などとはせず、上記と同様に示す。引用箇所が限定的な場合は該当ページを記し、全体的な内容に触れる場合は刊行年のみを記す。（ ）内のカンマやコロンなどは半角とし、直後に半角のスペースを空ける。著者名は姓のみを記し、同姓か

つ同一刊行年の文献がある場合は姓名を記す。また、すべての文献引用箇所に必ず黄色マーカーを施すこと。図表への言及は、「第○図によると～」「～が明白である(第○図, 第△表)」のように記す。すべての図表言及箇所に必ず黄色マーカーを施すこと。

8 付記

本文の後に付記を付けることができる。付記は次の①～③の順に記す。①研究費の情報(研究資金名, 課題番号など), ②学会発表などの情報(学会名, 日時, 場所など), ③謝辞(調査協力者や研究指導教員など)。

9 注

注番号は, 本文の該当箇所の右肩に上付き数字で¹⁾のように記す。文体や文献の引用, 図表への言及などは本文に準じる。脚注となるので, 本文の補足的な説明とし, 多くの文献に言及することや, 極端に長い文章を記すことは避ける。すべての注の上付き数字には必ず黄色マーカーを施すこと。

10 図表

地図, グラフ, フローチャート, 写真画像などは, すべて図として扱う。図的表現を含まない一覧表や年表などは, すべて表として扱う。図は, 写真画像などをそのまま版下とする場合を除き, ドローソフトなどを用いて作成することが望ましいが, 手書きの図も掲載可能とする。印刷時に不鮮明になると判断される図は, 印刷所で作成し直して実費を請求することがある。図中の文字も印刷所で調整することがある。表は文書作成ソフトまたは表計算ソフトを用いて作成する。図のカラー印刷も可能であるが, 通常用の紙に印刷することとし, 所定の実費を請求する。

図表は, 投稿時にはプリントアウト(コピー)のみを送付する。カラー印刷を希望する場合は, 当該図のプリントアウトにその旨を明記すること。原稿受理後に電子データを事務局に送付する。手描きの図は, 文字を抜いた原図と, そのコピーに文字を朱書したものを両方送付する。

図番号(第1図, 第2図とする)と表題は, 図の下に記す。表番号(第1表, 第2表とする)と表題は, 表の上に記す。図表のサイズは刷上りで1段幅(幅6.5cm)か2段幅(14cm)となるので, それぞれの図表の本文における初出箇所の右余白に, 当該図表の挿入位置とサイズを記す。他の著作から図表を転載する場合, あるいは資料の写真を図として掲載する場合は, 当該著作の著者および発行元, あるいは資料所蔵者から書面で許諾を受け, そのコピーを投稿時に同封すること。図の場合は表題の下に, 表の場合は表の下に, それぞれ注記を付けることができる。図表の出典や資料などは, 文献の引用と同様に「○○(2020: 23)の第△図を一部改変」などと記す。聞き取り調査による場合や, 所蔵者の承諾を得た写真画像を掲載する場合は, その旨を明記する。

すべての図表番号と表題の下には英語を併記する。英語の図表番号は「Figure 1., Figure 2.」および「Table 1., Table 2.」とする。表題は文頭の文字を大文字とし, あとは固有名詞などを除いて小文字とする。注記に英語を付す場合は必要最小限にとどめる。図表本体で英語表記が必要な場合は, 英語表記のみとすることが望ましい。日本語と英語の図表番号と表題, および注記は, 図表一覧として別紙にまとめて提出する。

11 文献

本文、注、図表の注記で引用した文献は、すべて文献表に入れる。文献表の「,」および「.」は半角とし、文献の記載例に倣って半角のスペースを空ける。文献の配列順序は、日本語、中国語、朝鮮語、アルファベット表記の外国語、アルファベット表記以外の外国語（複数ある場合の言語の配列順序は問わない）、ウェブサイト（配列順序は文献に準じる）とする。日本語文献は、著者名の50音順に並べる。翻訳文献の原著者名は当該文献の表記に従い、著者のファミリーネームのカナ表記に従って50音順に並べる。外国語文献は、言語ごとに著者名をアルファベット表記した場合の順序に従う。ウェブサイトからの引用は、当該情報にアクセスする手段が他にない場合に限る。同一著者の文献が複数ある場合は、古いものを前にする。同一著者で同一刊行年の文献が複数ある場合は、文献刊行年のあとに小文字アルファベット（a, b など）を付して区別する（小文字アルファベットの配列順序は、本文中での初出順による）。

アルファベット表記以外の全ての文献（ウェブサイトを含む）には、書誌情報のアルファベット表記を半角の [] 内に併記する。その際、当該文献に翻訳としてのアルファベット表記が併記されている場合はそれを採用する。併記されていない場合は、日本語文献は投稿者によるヘボン式ローマ字表記を併記し、それ以外の文献は投稿者自身による英語訳を併記する。翻訳文献は、原著文献がアルファベット表記の場合は、その書誌情報を併記し、原著文献がアルファベット表記以外の場合は、投稿者自身による書誌情報の英語訳を併記する。

[文献の記載例]

- 日本語雑誌論文

川久保篤志 (2014). 牛肉輸入圧力下の肉用牛産地の存立構造と将来展望—輸入自由化以降の北海道十勝地方を事例に—。人文地理, **66**(3), 209–230. [Kawakubo, A. (2014). Existing structure and prospects for cattle production areas under pressure from beef imports: A case study of Hokkaido after trade liberalization in Japan. *Japanese Journal of Human Geography*, **66**(3), 209–230.]

島津俊之 (2013). 高野山にとって世界遺産とは何か。地理, **58**(11), 53–63. [Shimazu, T. (2013). Koyasan ni totte sekaiisan towa nanika. *Chiri*, **58**(11), 53–63.]

【注意】 巻数と号数の両方がある雑誌（『人文地理』『地理学評論』など）は、巻数に加えて号数を（ ）内に記す。この場合、巻ごとの通しページ数を記す。ただし、通しページ数のない雑誌（『新地理』『地理』など）は、号ごとのページ数を記す。また、巻数は太数字で記し、号数のみの雑誌の場合は、号数を太数字で記す。

- 日本語単著書

木内信蔵 (1951). 『都市地理学研究』 古今書院。[Kiuchi, S. (1951). *Urban geography: The structure and development of urban areas and their hinterlands*. Kokon Shoin.]

千田 稔 (2013). 『地名の巨人 吉田東伍—大日本地名辞書の誕生—』 角川書店。[Senda, M. (2013). *Chimei no kyojin Yoshida Togo: Dainippon Chimei Jisho no tanjo*. Kadokawa Shoten.]

- 日本語共著書

松原 宏・鎌倉夏来 (2016). 『工場の経済地理学』 原書房。[Matsubara, H. and Kamakura, N. (2016). *Kojo no keizai chirigaku*. Hara Shobo.]

- 日本語編著書

- 神田孝治編 (2009). 『観光の空間—視点とアプローチ』 ナカニシヤ出版. [Kanda, K., ed. (2009). *Spaces for tourism*. Nakanishiya Shuppan.]
- 日本語編著書の一部

山野正彦・山田 誠・野間晴雄 (2013). 人文地理学. 人文地理学会編『人文地理学事典』丸善出版, 2-5. [Yamano, M., Yamada, M., and Noma, H. (2013). *Jimbun chirigaku*. In Human Geographical Society of Japan, ed. *The dictionary of human geography*. Maruzen Publishing, 2-5.]
 - 翻訳文献

メリフィールド, A. (小谷真千代・原口 剛訳) (2018). 都市への権利とその彼方—ルフェーブルの再概念化に関するノート— 空間・社会・地理思想, **21**, 107-114. [Merrifield, A. (2011). The right to the city and beyond: Notes on a Lefebvrian re-conceptualization. *City*, **15**(3-4), 473-481.]

エジントン, D. W. (香川貴志・久保倫子訳) (2014). 『よみがえる神戸—危機と復興契機の地理的不均衡—』海青社. [Edgington, D. W. (2010). *Reconstructing Kobe: The geography of crisis and opportunity*. UBC Press.]

崔昌祚 (金在浩・渋谷鎮明訳) (1997). 『韓国の風水思想』人文書院. [Ch'oe, C.-J. (1984): *Geomancy in Korea*. Minumsa.]

【注意】 アルファベットの名・名の表記は、ファミリーネームのみをカナ表記とし、ファーストネームとミドルネームはイニシャルをアルファベットで記す。原著文献の書誌情報は、WorldCat.orgなどで確認すること。
 - 外国語雑誌論文

Chalmers, L. and Berg, K. (2014). Changes, challenges and responsibilities in geographical education: The International Geography Olympiad. *Geographia Polonica*, **87**(2), 267-276.

Imani, A. H., Miller, E. J., and Saxe, S. (2019). Cycle accessibility and level of traffic stress: A case study of Toronto. *Journal of Transport Geography*, **80**, 1-10.

Papotti, D. and Salarelli, A. (2001). LDL (Landscape Digital Library): A digital photographic database of a case study area in the River Po Valley, Northern Italy. *High Energy Physics Libraries Webzine*, **5**, <http://webzine.web.cern.ch/webzine/5/papers/5>

【注意】 ページ数のない電子ジャーナルは、URL をページ数に代えて記す。
 - 外国語単著書

Punter, J. (2003). *The Vancouver achievement: Urban planning and design*. UBC Press.
 - 外国語共著書

Lewis, M. W. and Wigen, K. (1997). *The myth of continents: A critique of metageography*. University of California Press.
 - 外国語編著書

Anderson, K., Domosh, M., Pile, S., and Thrift, N., eds. (2003). *Handbook of cultural geography*. Sage.
 - 外国語編著書の一部

Brogiato, H. P. (2008). Gotha als Wissens-Raum. In Lentz, S. and Ormeling, F., eds. *Die Verräumlichung des Weltbildes: Petermanns Geographische Mitteilungen zwischen "explorativer Geographie" und der "Vermessenheit" europäischer Raumphantasien*. Franz Steiner Verlag, 15-30.

- ウェブサイト

人文地理学会 (2019). 人文地理学会とは. [Jimbun Chiri Gakkai (2019). Jimbun chiri gakkai towa.] <http://hgsj.org/about/> (accessed 2 November 2019)

Royal Geographical Society with IBG (2019). Visit the Foyle Reading Room. <https://www.rgs.org/about/our-collections/the-foyle-reading-room/> (accessed 2 November 2019)

【注意】 []内のローマ字表記は、タイトルと URL の間に入れる。閲覧日は全て英語で記す。

12 書評

書評の原稿は、A4 用紙を用いて 1 ページ当たり 24 字×42 行×2 段とし、10.5 ポイントで印字する。フォントは「MS 明朝」とし、英数字は半角にして「Century」を用いる。2 ページ完結となるので、可能な限り 2 ページ目の最終行まで使う。記載事項は、最初に 3 行の空白を確保し、4 行目から著者名（編者名）、書籍名（副題は「— —」で挟む）、出版社名、発行年、総ページ数（「〇〇+iv 頁」「254p.」のように記す）、本体価格+税（海外発行の書籍の場合は可能な限り現地通貨による実勢価格）、ISBN（ハイフン付き13桁）を順に記し、改行して右詰めで評者の氏名を記す。次に 1 行の空白を設け、左詰めで本文を書き始める。

なお、書評は電子メールの添付ファイル（Word ファイルなど）の形で投稿してもよい。その場合、原稿送付状は学会ウェブサイトの Excel ファイル（<http://hgsj.org/kaishi/>）を用いて添付すること。